

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- **直近 1 週間は前週に比べ減少しているが、一日平均約990名であり、極めて高水準で推移。**
(ゴールデンウィーク中の検査数減少に伴い、6日以降の新規陽性者数の推移に留意が必要。)
- 20・30代新規陽性者数は5月3日以降減少に転じ、他の年代も同様に減少傾向。
40代未満の割合は減少している一方、**60代以上は増加し、陽性者に占める割合は3割弱となり、今後の重症病床の更なるひっ迫が懸念。**
- 推定感染日別陽性者数においては、**まん延防止等重点措置適用後は横ばいで推移しており、新規陽性者数の指数関数的増加を抑えた可能性はある。**
緊急事態宣言発令を国に要請した4月20日前後から新規陽性者数が減少に転じた可能性があり、**緊急事態措置の効果の見極めが必要。**

(2) 市内・市外居住者の発生動向 (週・人口10万人あたり)

- 週・人口10万人あたり**市内外居住の新規陽性者数は、直近 1 週間で減少に転じている。**
各保健所管内別新規陽性者数は減少傾向にあるが、いずれもステージⅣの基準を大きく超過。
- 感染経路不明者の割合については依然 6 割を超過したままであり、**市内外ともに市中感染が多く発生。**

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者の割合は直近 2 週間で減少。**
居酒屋・飲食店に滞在歴のある新規陽性者数は、第三波緊急事態措置期間中ほどには減少していない。
滞在エリアでは市内外ともに減少している。
- **クラスターは、施設関連が発生件数の約半数を占め、直近約 1 か月では医療機関関連が増加。大学・学校関連や企業事業所関連は大きな減少傾向は見られない。一方、飲食・イベント等関連は急減。**

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 重症病床及び軽症中等症病床いずれも緊急要請により、医療機関の協力のもと、臨時的に増床を行っているが、**重症病床使用率及び軽症中等症使用率はいずれも極端にひっ迫した状態が続いており、確保病床を上回る重症者数が発生している状態が続いている。**
一般医療の一部制限も続いており、大阪府の医療提供体制は限界を超えつつある状態。
- 直近の新規陽性者数の平均値で試算したシミュレーションでは、**新規陽性者数がステージⅢを下回るのは6月下旬となり、重症シミュレーションで赤信号解除基準を満たすのは6月中下旬と想定。**
また、**療養者数シミュレーションでは、療養者数は5月中旬まで20,000人程度となり、うち、自宅療養が16,000人前後となる可能性。**

今後の対応方針について

緊急事態措置の延長により、府全域での接触機会の大幅な削減によって、感染収束の速度を急速なものとし、医療提供体制のひっ迫を早期に改善していくことが必要